

CeMI 気象防災支援・研究センター  
*News Letter*

Contents

1. 3月は冬？春？
2. 東京のさくらの開花について
3. お天気よもやま話  
～花粉光環



# 1 3月は冬？春？

3月は冬か春かの問いかけには当然の回答が戻って来そうですが、南北に長い日本では北日本とそれ以外の地方とでは季節の歩みが全く異なります。「当然春でしょう」という地方でも日々の天気変化の中では突然真冬のような日が現れることがあり、春と冬が混在しているのが3月です。

最近ではあまり耳にすることがなくなりましたが、今から100年以上前に作られた唱歌の『早春賦』は「春は名のみ風の寒さや」で始まります。この歌詞は春3月の長野県安曇野が舞台になったとされています。

立春から1か月も経つと日射しが徐々に強まり、日中は穏やかな暖かい日も増えて来ます。中旬以降になると西日本や東日本では桜の開花も話題になります。本格的な春が近づく3月ですが、この時期には寒さをもたらす寒気がまだ大陸に残っており、日本付近にまで南下して来て、冬のような天気をもたらすことも稀ではありません。寒暖の変化が大きくなり、最高気温が1日で7、8℃、時には10℃近く変わることもあります。西日本や東日本でも初夏のような陽気が現れたかと思うと、翌日は雪が降るのではと思わせるような天気に変わることがあります。

このような大きな気温の変化は、気温が大きく上昇すると多雪地では融雪や雪崩の危険が高くなります。一方、気温が急に下がると低温や凍結、降雪による混乱や被害も生じます。

さらに、最近しばしば話題にのぼるようになったのが“気象病”です。気象病の原因は気圧や気温、湿度の変化と言われています。

台風や低気圧が近づいてきたり、梅雨や秋霖の時期に不順な天気が続くと体調の不良を訴える人が増えてきます。気象病の症状は頭痛や疲労感、膝や腰の痛みなど多岐にわたるようですが、普段は健康な人であっても体調をくずす要因となるのが大きな気温の変化です。3月は特に気温の変化が大きいだけに気象病の症状が出る人にとってはつらい季節です。

春と冬のふたつの季節が混在する3月は雪崩や強風、乾燥による災害への備えも大切ですが、天気予報を見る際には晴雨など天気の変化だけではなく、気温の予報にも目を向けてください。





## 2 東京のさくらの開花について

30年以上前でしょうか、さくらの季節と言えば4月だったですね。小学校に限らず中学校、高校でも必ずと言っていいほど桜の木が植えてあり、ちょうど入学式の頃にさくらが満開になって新入生を出迎えていました。

最近では、東日本から西日本の太平洋側となりますが、卒業式の頃にさくらが見頃になることも珍しくなくなりました。

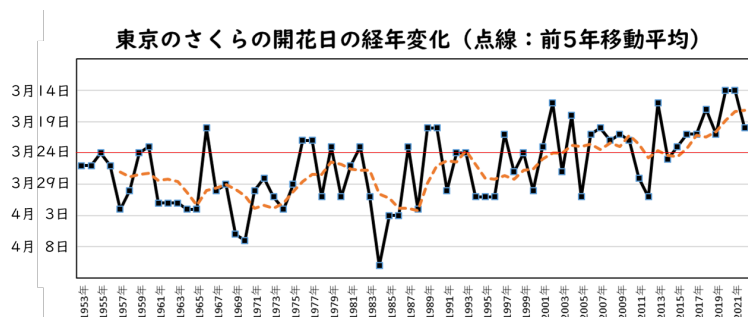
図は、1953年以降の東京のさくらの開花日の経年変化を示したものです。また、さくらの開花は、直前の気象の影響を受けますので、年によってばらつきが大きくなりますので、開花日を前5年の移動平均で点線で示しています。

1980年代までは、年ごとの変動はあるものの、5年移動平均で見ますとおおむね3月終わりごろの開花となっています。さくらは、開花から満開になるまで1週間から10日かかりますので、ちょうど入学式の頃にあたるが多かったわけです。

それが、次第に早くなる傾向がみられるようになりまして、2000年以降になりますと開花日が3月20日より早くなることも出てきました。特に、2020年、2021年には3月14日に開花しましたので、3月20日前後の卒業式の頃には、

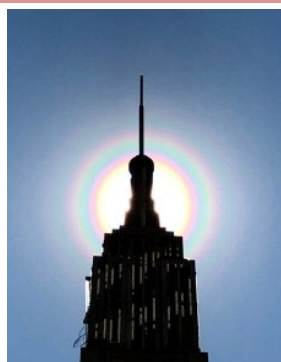
さくらが見頃になっていると思われます。さくらに見送られて「卒業」って季節感がかなり変わってきています。

これらの要因としては、都市化によって年々気温が上昇しているものの他に、地球温暖化の影響もあるのでしょうか。さくらの開花が近年早くなっているのは東京だけの現象ではなくて、全国的なものです。例えば、東北の仙台では、1980年代までは4月の中旬に開花することが多かったのですが、次第に早まり、2000年以降は4月上旬に開花するようになりました。2002年にはついに3月に開花し、2018年以降の5年間に3回も3月に開花するなど、東京と同様に開花が早くなっていると思われます。



気象庁より(東京の開花の平年日:3月24日)

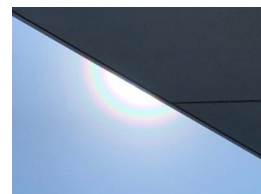
## 3 お天気よもやま話 ~花粉光環



春先には空が霞んでいることが多いですね。大気中に漂う細かい土ほこりやチリ等の粒が原因で、空が白っぽく濁って見えることを、天気予報に使う予報用語では「煙霧」といい視程(見通せる距離)がおよそ10km未満の時に使います。煙霧の原因になる細かい粒は、工場等の煙や自動車からの排気ガス、たき火や火事の煙等の人間由来のものほか、黄砂や火山の煙、土ほこり、それらに加え、今真っ盛りの花粉等、自然由来のものがあります。

3月上旬は花粉の飛散量が最も多い時期。晴れて暖かい日に、空が白っぽく見える主な原因は花粉ということも多いです。私は花粉症なので、とても憂鬱なのですが、そんな日々の中にも、ささやかな楽しみが見つかりました。太陽の写真を撮影することです。上手くいくと、太陽の周り

に色鮮やかな虹色の輪が写っていることがあります。これを花粉光環と言います。撮影のコツは、太陽を建物や何かで隠した状態で、スマートフォンやカメラで撮影すること。花粉が大量に飛んでいる時は特に鮮やかな同心円状の虹色の輪を撮影できます。ただし、目の網膜にダメージを与えてしまうので、太陽を直接見ることは絶対に避け、必ず何かで太陽を隠してから撮影するようにしてください。



花粉光環は、太陽光が花粉の粒を回り込むように曲がることで起こる現象です。鮮やかな虹色の縞模様のように見えるのは、花粉の粒の大きさがそろっているためです。月の周りにできることもあり、こちらは直接肉眼で見ることができます。

広い地域で例年より多い飛散量が予想されている今春。マスク・服薬等で辛い花粉の症状をしのぎつつ、美しい花粉光環の撮影は楽しみたいと思います。



掲載内容へのご意見、そのほかサービスに関するご相談・ご要望等ございましたらお気軽にご連絡ください。

NPO法人 環境防災総合政策研究機構(CeMI)

気象防災支援・研究センター

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22ローヤル若葉606号

<http://www.npo-cemi.com/center.html>

☎ 03-3359-7971

☎ 03-3359-7987

✉ [advisory@npo-cemi.com](mailto:advisory@npo-cemi.com)

